# 東京23区「清掃工場故障週報」 平成22年度 －清掃工場別－

## 杉並清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 75 | 1号炉 | 休炉 | H23.1.12 | 9:00 | H23.1.24 | 0:40 | 炉内圧力が上昇し、誘引ファンの負荷が増大した。焼却量の減量運転及びボイラスートブローを実施したが、改善されないため焼却炉を停止した。 |
| 60 | 2号炉 | 休炉 | H22.11.16 | 0:05 | H22.11.20 | 22:30 | 「減温塔ダスト搬出コンベア過負荷」にて停止した。正転･逆転運転を繰返し試みたが復旧しないため焼却炉を立ち下げた。以後、マニュアルに従い減温塔点検用マンホールを解放し外部から目視点検のみ実施した。 |
| 48 | 1号炉 | 休炉 | H22.10.5 | 8:00 | H22.11.4 | 0:00 | 現状において、ボイラ缶水伝導度が下がり、また通常運転時より純水使用量の増加が確認された。ボイラ給水系統の点検を強化したが異常が見つからなかったので、その他の原因究明のため焼却炉を立ち下げた。 |
| 10 | 1号炉 | 休炉 | H22.4.23 | 9:02 | H22.4.28 | 18:00 | 点検の際、ボイラ下部シュート（上流側）を触手したところ、表面温度が高い部位があることに気付いた。灰の堆積を推測し、槌打するも解消できないので焼却炉を立下げた。 |
| 9 | 1号炉 | － | H22.4.21 | 23:02 | H22.4.22 | 4:00 | №1雑用空気圧縮機の電気故障（地絡）が発生し、共通常用補機C/Cの遮断器が「断」となった。これにより炉用関連機器が停止したため、焼却炉内温度制御が不可となったため焼却炉を立ち下げた。 |
| | 2号炉 | － | H22.4.21 | 23:02 | H22.4.22 | 1:30 | |
| 3 | 2号炉 | － | H22.4.11 | 0:00 | H22.4.11 | 18:00 | 燃焼ストーカが停止したため、継続運転ができないので焼却炉を立ち下げた。 |

## 光が丘清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 66 | 2号炉 | 休炉 | H22.11.29 | 0:30 | H22.12.9 | 21:10 | 「ボイラ下ロータリーバルブ（1）トリップ」警報が発報した。現場にて復旧作業を試みたが解除できないため、焼却炉を立ち下げた。 |
| 64 | 1号炉 | 休炉 | H22.11.15 | 17:00 | | | 蒸気式ガス再加熱器入口排ガス温度が、管理値を下回るため調査を行ってきたが、原因を特定できない。よって、内部点検するため焼却炉を立ち下げた。 |
| 40 | 1号炉 | 休炉 | H22.9.13 | 11:10 | | | ろ過式集じん器ホッパ下フライトコンベアが振動しているのを発見した。駆動側コンベアケース内の灰詰まりを解除するも、ホッパより灰の落下が見られず詰まりと判断し、焼却炉を立ち下げた。なお、このまま定期点検補修に入る。 |
| 15 | 2号炉 | 休炉 | H22.5.17 | 10:00 | H22.5.27 | 20:00 | 火格子下ホッパ上部より灰が漏洩しているので、調査･補修するため焼却炉を立ち下げた。 |

## 大田清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 69 | 2号炉 | 休炉 | H22.12.19 | 12:09 | H22.12.22 | 8:00 | 飛灰空気輸送装置「ブロータンク圧力　高」の警報が発報した。点検の結果、ブロータンク内部で灰詰りが発生しており、詰りを解除するため焼却炉を停止した。 |
| 32 | 1号炉 | 休炉 | H22.7.14 | 9:00 | H22.7.22 | 10:03 | 「後燃焼ストーカ異常」警報が発報した。ストーカのストロークが低下（190→85mm）し始め、調査するも回復が見込めないため焼却炉を立ち下げた。 |
| 24 | 1号炉 | 休炉 | H22.6.30 | 8:15 | H22.7.7 | 5:35 | ボイラ下ホッパ部熱電対の温度指示値が下がり傾向のため点検をしたところ、ボイラ1～2パス下ホッパ及びダストシュート部でブリッジが発生した。ブリッジ解除するため1号炉を立ち下げた。 |

## 目黒清掃工場

故障による休炉なし

# 東京23区「清掃工場故障週報」 平成22年度 －清掃工場別－

## 有明清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 85 | 2号炉 | 休炉 | H23.3.12 | 15:00 | H23.3.24 | 15:46 | ボイラ下シュートの温度計指示が低いことに気づき、ボイラ灰によるシュートの閉塞と判断した。以後、下流側ダストコンベアの点検口より搬出される灰の量を観察しつつ状況を踏まえ、焼却炉を停止した。 |
| 54 | 1号炉 | 休炉 | H22.10.22 | 16:44 | H22.10.23 | 17:27 | 「主灰シュートブリッジ」警報が発報し、灰冷却水槽からの灰搬出状況を確認後、主灰シュートブリッジ解除装置を作動させたが復旧しないため、焼却炉を立ち下げた。 |
| 47 | 2号炉 | 休炉 | H22.9.18 | 11:00 | | | 新たに設置したボイラ下シュート表面の温度計指示値が低いことに気づき、ボイラ灰によるシュートの閉塞と判断した。以後、下流側ダストコンベアの点検口より搬出される灰の量を観察しつつ状況を踏まえ、焼却炉を停止した。なお、このまま中間点検に入る。 |
| 45 | 1号炉 | 休炉 | H22.9.18 | 11:00 | H22.10.3 | 15:44 | 巡回点検にて、ボイラ下シュートの触手で表面温度が低いことに気づき、ボイラ灰によるシュートの閉塞と判断した。以後、下流側ダストコンベアの点検口より搬出される灰の量を観察しつつ状況を踏まえ、焼却炉を停止した。 |
| 44 | T/G | 停止 | H22.9.21 | 15:30 | H22.9.22 | 13:44 | 巡回点検にて、タービン入口蒸気流量発信器取出し口元弁の1次側フランジ部から蒸気漏れを発見した。直営にて増締めを実施したが蒸気漏れが止まらないため、補修するので蒸気タービン発電機を停止した。 |
| 35 | 1号炉 | － | H22.8.17 | 7:34 | H22.8.17 | 13:16 | 直流電源装置の整流器基盤が故障し、直流電源の電圧が低下しプラント機器の各制御装置が停止した。その影響でタービン発電機及び1･2号炉のIDFがインターロックで停止したため焼却炉を立ち下げた。 |
| | 2号炉 | － | H22.8.17 | 7:34 | H22.8.17 | 15:30 | |

## 千歳清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 65 | 1号炉 | 休炉 | H22.11.27 | 10:30 | | | 燃焼ストーカ用駆動装置ロッドシールボックスの下部ケーシングに亀裂が生じ、炉内からの煙等が漏えいのため焼却炉を立ち下げた。 |
| 34 | ごみクレ | 停止 | H22.8.16 | 15:30 | H22.8.17 | 11:45 | NO.1ごみクレーン巻上げ用ワイヤーロープ(4本中、1本)が断線したため使用を中止する。NO.2ごみクレーンの巻上げ電動機用電磁式ブレーキが過熱したため使用を一時中止する。 |
| | | | H22.8.17 | 2:38 | H22.8.17 | 11:45 | |

## 江戸川清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 84 | 2号炉 | 休炉 | H23.3.2 | 10:00 | H23.3.28 | 17:45 | ボイラ出口圧力の低下（ボイラ内圧損が上昇）を確認後、推移を観察していたがさらにボイラ出口圧力が低下したため、焼却炉を停止した。 |
| 28 | 1号炉 | 休炉 | H22.7.12 | 18:57 | H22.7.14 | 11:52 | 「給じん装置ｻｲｸﾙﾀｲﾑｵｰﾊﾞｰ」の警報により現場確認したところ、油圧駆動ｼﾘﾝﾀﾞｰのﾛｯﾄﾞが折損しており、ごみの供給が不能となったため、焼却炉を立ち下げた。 |

## 墨田清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23 | 1号炉 | 休炉 | H22.6.24 | 13:00 | | | №1主灰シュートブリッジが発生したため、ホッパブリッジ解除装置による復旧を試みた。解除作業を続けたが復旧は見込めないと判断し焼却炉を立ち下げた。なお、このまま中間点検に入り解除作業を実施する。 |

## 北清掃工場

故障による休炉なし

## 新江東清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 74 | 2号炉 | 休炉 | H23.1.11 | 1:00 | H23.1.20 | 11:16 | 主灰シュートブリッジの警報が発報したため、ブリッジ解除装置で復旧を試みたが、解除できないため焼却炉を立ち下げた。 |
| 5 | 1号炉 | 休炉 | H22.4.13 | 9:30 | H22.5.20 | 0:20 | 燃焼ストーカ駆動装置の炉体ケーシング貫通シール部のジャバラが損傷し、灰等が漏れているのを点検で発見した。補修のため焼却炉を立ち下げた。 |
| 2 | 共通 | 休炉 | H22.4.3 | 9:23 | H22.4.6 | 9:59 | №1排気復水ポンプ（B）の絶縁不良で「非常用動力低圧フィーダ」が地絡を検出して遮断した。運転中の1･2号焼却炉のうち、非常停止後の再立上げ操作で時間を要した1号炉を停止した。 |

東京二十三区清掃一部事務組合「清掃工場故障週報」より作成

# 東京23区「清掃工場故障週報」 平成22年度 －清掃工場別－

## 港清掃工場

故障による休炉なし

## 豊島清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 57 | 2号炉 | 休炉 | H22.11.4 | 8:18 | | | 焼却炉内壁面に付着したクリンカが剥離し、そのまま流動層上に横たわり流動不良が発生した。ごみの供給を停止してクリンカの破壊を試みたが砂の流動が復旧せず、焼却不能と判断し焼却炉を立ち下げた。なお、このまま中間点検に入る。 |
| 49 | 2号炉 | 休炉 | H22.10.5 | 11:23 | H22.10.12 | 19:43 | 焼却炉内壁面に付着したクリンカが剥離し、そのまま流動層上に横たわり流動不良が発生した。ごみの供給を停止してクリンカの破壊を試みたが砂の流動が復旧せず、焼却不能と判断し焼却炉を立ち下げた。 |
| 41 | 2号炉 | 休炉 | H22.9.13 | 8:22 | H22.9.23 | 19:45 | 焼却炉内壁面に付着したクリンカが剥離し、そのまま流動層上に横たわり流動不良が発生した。ごみの供給を停止してクリンカの破壊を試みたが砂の流動が復旧せず、焼却不能と判断し焼却炉を立ち下げた。 |
| 22 | 2号炉 | 休炉 | H22.6.23 | 15:00 | H22.7.1 | 18:36 | 不燃物抜出装置（2-2系）から不燃物等を抜き出せなくなった。片系の運転では支障が生じるため解除を試みたが、当該装置上部危急ゲート付近まで砂詰まりがあり、炉内から解除する必要があるため休炉した。 |

## 渋谷清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 73 | 1号炉 | 休炉 | H23.1.1 | 12:48 | H23.1.3 | 10:55 | 「不燃物抜出装置№2機器異常」警報が発報し過電流にてトリップした。解除するため2軸スクリューコンベアを正転、逆転運転したが解除不可能のため焼却炉を立ち下げた。 |
| 53 | 1号炉 | 休炉 | H22.9.17 | 9:30 | H22.10.26 | 20:08 | 脱気器へ導かれる蒸気式ｶﾞｽ再加熱器用ﾄﾞﾚﾝ配管より蒸気漏れを発見した。ﾊﾞｲﾊﾟｽﾗｲﾝに切換え、減圧用ｵﾘﾌｨｽ下流側配管に破孔(4mm程度)した漏れ箇所を確認した。補修する準備が整ったので焼却炉を停止した。 |

## 中央清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 79 | 1号炉 | 休炉 | H23.2.22 | 18:17 | H23.2.26 | 8:38 | 「ボイラ灰搬出装置故障」警報が発報したので点検すると、ボイラ下ホッパシュートで灰詰まりを確認した。シュートを槌打するも解除しないため焼却炉を立ち下げた。 |

## 板橋清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 1号炉 | 休炉 | H22.7.1 | 21:21 | | | 輻射部ダストコンベアのトルクリミッタが作動し過負荷で停止した。インチング運転等の処置を講じたが復旧に至らず、運転中に作業を行うことは困難と判断し、焼却炉を停止した。なお、このまま定期点検補修工事に入る。 |

## 多摩川清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 77 | 1号炉 | 休炉 | H23.1.21 | 2:06 | H23.1.23 | 8:00 | 給じん装置上面スクレーパ用カバーが脱落したため、休炉し補修する。 |

## 足立清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 88 | 2号炉 | 休炉 | H23.3.28 | 14:20 | H23.3.31 | 14:43 | 燃焼ストーカ下シュート部で煙が出ているのを発見した。ごみ投入を停止して点検窓より炉内を確認したところ、後燃焼ストーカ上に脱落した火格子が確認された。補修するため焼却炉を立ち下げた。 |
| 87 | 1号炉 | 休炉 | H23.3.23 | 8:00 | | | 蒸発量に比べてボイラ給水量の増加が確認された。また、通常運転時より純水使用量の増加も確認された。ボイラ給水系統の点検を実施したが異常が見つからなかったので、原因究明のため焼却炉を立ち下げた。 |

**東京23区「清掃工場故障週報」 平成22年度 －清掃工場別－**

**品川清掃工場**

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 82 | 2号炉 | 休炉 | H23.2.23 | 2:25 | H23.3.17 | 12:51 | №3燃焼ストーカ上のごみ層厚がｽﾄｰｶ上流側より高くなったので計器の点検及び導圧管をｴｱﾊﾟｰｼﾞしたが正常値であった。また、導圧管より炉内を覗くとｽﾄｰｶ下ﾎｯﾊﾟ内に灰の堆積を目視した。経過観察にて運転を継続していたが「№3左列燃焼ｽﾄｰｶ後退渋滞」警報が頻発したので休炉した。 |
| 70 | 2号炉 | 休炉 | H22.12.12 | 0:39 | H22.12.23 | 15:18 | 「集じん器1ｽｸﾘｭｰｺﾝﾍﾞﾔ電流値PV上限」警報が多発した。灰搬出量が少量であったため槌打を実施していたが、通常搬出量に戻らなかったため焼却炉を立ち下げた。 |
| 68 | 1号炉 | 休炉 | H22.12.11 | 14:15 | H22.12.19 | 12:17 | 「1号集じん器2ｽｸﾘｭｰｺﾝﾍﾞｱ電流値PV上限」警報が発報した。槌打を実施したがｺﾝﾍﾞｱからの灰搬出が確認できなくなったため焼却炉を立ち下げた。 |
| 61 | 2号炉 | 休炉 | H22.11.18 | 9:25 | H22.11.27 | 14:19 | 「2号集じん器1ｽｸﾘｭｰｺﾝﾍﾞｱ電流値PV上限」警報が多発した。ｺﾝﾍﾞｱからの灰搬出がないため、槌打を実施したが改善しないので焼却炉を立ち下げた。 |
| 51 | 2号炉 | 休炉 | H22.10.6 | 0:31 | H22.10.21 | 18:00 | 「ろ過式集じん器集じんダスト搬出装置故障」警報が発報した。コンベアからの灰搬出がないため、槌打等の処置を試みたが回復しないので、焼却炉を立ち下げた。 |
| 42 | 1号炉 | 休炉 | H22.9.20 | 18:00 | H22.10.8 | 11:12 | ボイラ側壁部より漏水が確認された。ラッキング及び保温材を外し、漏水箇所を特定して修理する必要があるため焼却炉を立ち下げた。 |
| 39 | T/G | － | H22.9.8 | 20:45 | H22.9.13 | 14:37 | 主蒸気止弁取付フランジより蒸気漏れを確認したので蒸気タービンを立ち下げた。なお、蒸気漏れ補修のため1号炉を10日（金）16:32 立ち下げ開始した。 |
| 38 | 1号炉 | 休炉 | H22.9.3 | 2:29 | H22.9.7 | 14:31 | 「減温塔ﾛｰﾀﾘｰｽｸﾚｰﾊﾟ制御盤故障」警報が発報した。槌打及びｻｰﾏﾙ設定を3.5A→3.8Aに変更して、正転逆転を繰り返し操作したが動かず復帰できないので焼却炉を立ち下げた。 |
| 16 | 1号炉 | 休炉 | H22.5.29 | 22:00 | H22.6.9 | 12:56 | 炉内監視中、主灰ｼｭｰﾄから煙が多く発生してきたので現場確認したところ、炉後壁ｶﾞﾗｽ窓(炉前覗き窓近く）まで灰が堆積しているのを確認した。主灰ｼｭｰﾄ下ﾀﾞﾝﾊﾟの切替操作を試みたが動かないので焼却炉を停止した。 |
| 1 | 2号炉 | 休炉 | H22.3.28 | 0:36 | H22.4.13 | 6:18 | 「乾燥ストーカ渋滞（右･左列）」の警報が発報しつつ、様子を見ながら運転をしていたが、十分なストロークがなくなったため焼却炉を停止した。 |

# 東京23区「清掃工場故障週報」 平成22年度 －清掃工場別－

## 世田谷清掃工場(ガス化溶融炉)

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 76 | 2号炉 | 休炉 | H23.1.15 | 20:50 | H23.1.23 | 11:20 | ガス化炉の流動不良が起こり、流動層温度の低下が発生した。改善操作を試みたが流動不良が解消しないため、調査、補修するため焼却炉を立ち下げた。 |
| 71 | 2号炉 | 休炉 | H22.12.21 | 13:00 | H23.1.4 | 11:08 | 点検時、砂分級装置ケーシング部より砂漏れを発見した。調査･補修するため焼却炉を立ち下げた。 |
| 67 | 2号炉 | 休炉 | H22.11.29 | 21:13 | H22.12.9 | 11:27 | 「砂循環エレベータ故障」警報が発報した。砂循環エレベータを再起動するも閉塞箇所あるため、炉内に砂供給ができないので焼却炉を立ち下げた。 |
| 63 | 1号炉 | 休炉 | H22.11.22 | 13:00 | | | 炉内散気管への炉体ケーシング接続部から空気漏れを発見した。補修するため焼却炉を立ち下げた。 |
| 56 | 2号炉 | 休炉 | H22.10.27 | 22:52 | H22.11.2 | 11:28 | 「ボイラ下ダスト排出コンベヤ故障」警報が発報した。正転･逆転運転を試みるも復旧しないため、焼却炉を休炉して内部点検する。 |
| 55 | 1号炉 | 休炉 | H22.10.25 | 18:39 | H22.11.11 | 11:42 | 「減温塔ﾛｰﾀﾘｽｸﾚｰﾊﾟ過ﾄﾙｸ」警報が発報した。調整し、ﾛｰﾀﾘｽｸﾚｰﾊﾟが運転可能となったが、灰の搬出がないため焼却炉を休炉して内部点検を行う。 |
| 52 | 2号炉 | 休炉 | H22.10.19 | 18:30 | H22.10.26 | 10:26 | 「砂循環エレベータ故障」警報が発報した。点検すると砂循環エレベータの駆動用電動機の軸受が破損し運転不能により、補修するため焼却炉を立ち下げた。 |
| 43 | 2号炉 | 休炉 | H22.9.20 | 0:54 | H22.9.25 | 11:44 | 助燃バーナ流量不足により安定運転ができないため、焼却炉を停止し助燃バーナ部を点検清掃する。 |
| 27 | 2号炉 | 休炉 | H22.7.4 | 8:35 | H22.7.7 | 9:42 | リモートI／O盤（分散型制御システム（DCS）と現場計装計器との中継器）の一部からの信号がロック状態となり、制御不能となったため休炉した。 |
| 26 | 1号炉 | 休炉 | H22.7.2 | 15:00 | | | ITV監視中、流下口の冷却用冷却水が漏洩しているのを発見した。継続運転ができないため休炉した。なお、このまま中間点検に入る。 |
| 21 | 2号炉 | 休炉 | H22.6.18 | 13:50 | H22.6.25 | 10:00 | ガス化溶融炉の炉内圧力制御が不安定になり、継続運転ができないため立ち下げた。 |
| 18 | 2号炉 | 休炉 | H22.6.12 | 23:03 | H22.6.16 | 8:35 | 「砂循環エレベータ電流値上限」警報が発報した。現場確認したところ、砂供給装置フラップダンパ上部の投入用切替ダンパ付近で砂が詰まっていた。詰まりを解除するため立ち下げた。 |
| 11 | 2号炉 | 休炉 | H22.4.24 | 13:29 | H22.4.28 | 9:44 | 「砂分級装置故障」警報が発報した。現場確認したところ、砂分級装置振動モータが地絡していた。補修するため立ち下げた。 |
| 4 | 1号炉 | 休炉 | H22.4.11 | 13:50 | H22.4.16 | 9:30 | 「破砕ごみフラップダンパ上渋滞」警報が発報した。現場確認したところ、ダンパ駆動アーム部根元破断のため開閉動作不可となる。補修するため休炉した。 |

## 葛飾清掃工場

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 86 | 2号炉 | 休炉 | H23.3.22 | 10:30 | H23.3.29 | 11:16 | ボイラドラム付き圧力計取出し配管中、止弁の1次側継手部より蒸気漏れを発見した。増し締めしたが漏れが止まらないため焼却炉を立ち下げた。 |
| 20 | 2号炉 | 休炉 | H22.6.15 | 10:00 | H22.6.24 | 12:52 | 乾燥ストーカ駆動用ロッド貫通部シール用ジャバラの焼損により、燃焼空気が漏れ出した。耐火材等により補修を試みたが効果がなく、噴出し量が多くなため焼却炉を立ち下げた。 |
| 8 | みクレー | 停止 | H22.4.21 | 8:00 | H22.4.24 | 14:57 | 2号ごみｸﾚｰﾝの油圧ﾊﾞｹｯﾄを巻下げてごみを掴む際、給電ｹｰﾌﾞﾙが4～6mほど弛む。ﾒｰｶにて点検したところ給電ｹｰﾌﾞﾙ用巻上装置の減速機故障と判明した。補修のため当該ｸﾚｰﾝの運転を停止した。 |

# 東京23区「清掃工場故障週報」 平成22年度 －清掃工場別－

## 中防破砕ごみ処理施設

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 62 | | 休炉 | H22.11.16 | 9:00 | H22.11.27 | 4:18 | 循環ファンの軸受部からの異音発生について経過観察していたところ、交換の判断により焼却炉を立ち下げた。 |
| 50 | | 休炉 | H22.10.7 | 18:00 | H22.10.11 | 20:00 | 砂循環装置バケットコンベアの駆動部軸受が破損し、補修するため焼却炉を立ち下げた。 |
| 46 | | 休炉 | H22.9.26 | 20:07 | H22.9.29 | 16:50 | 「ボイラ下ロータリーバルブトリップ」警報が発報し停止した。点検口から確認したところ、ロータリーバルブに噛込みがあり、復旧するため焼却炉を立ち下げた。 |
| 33 | | 休炉 | H22.8.9 | 4:00 | H22.8.11 | 0:08 | 流動床炉「炉下圧力」が低下したため砂供給ラインを点検すると、砂投入弁付近で針金が絡みつき、炉への砂投入ができない状態のため焼却炉を立ち下げた。 |
| 17 | | 休炉 | H22.6.4 | 15:00 | H22.6.6 | 21:27 | 脱酸剤薬液配管中、脱気器への注入口付近でピンホールにより蒸気漏れが発生したので休炉した。 |
| 6 | | 休炉 | H22.4.17 | 3:38 | H22.4.17 | 21:32 | 砂分級装置「サーマルﾄﾘｯﾌﾟ」が発生した。砂分級装置振動コンベアモータの電源ケーブルが振動により、断線が点検の結果判明した。 |

## 板橋清掃工場(灰溶融炉)

故障による休炉なし

## 多摩川清掃工場(灰溶融炉)

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 83 | 1号炉 | 休炉 | H23.3.14 | 10:43 | | | 「集じん器一括故障」警報が発報し、ダスト排出装置が停止した。現場確認するとダスト排出装置の軸受破損かスクレーパ部に異物噛込みが推測されたので灰溶融炉を休炉した。このまま定期保全に入る。 |
| 81 | 1号炉 | 休炉 | H23.3.4 | 11:00 | H23.3.8 | 16:00 | 灰溶融炉中央制御室にて監視中、後燃焼室ﾌﾟｯｼｬの不動作を発見し点検したところ、後進工程になっていたが動いていないことを確認した。ダスト･塩塊等の影響による機器停止と推測し、灰溶融炉を休炉した。 |

## 足立清掃工場(灰溶融炉)

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 2号炉 | 休炉 | H22.8.19 | 16:30 | H22.8.25 | 5:08 | 「2号溶融集じん入口排ガス圧力 低」が発報したので、現場にてダクト等ハンマリングを実施したが復旧しなかった。排ガス減温塔周辺の閉塞が考えられ、解除するため休炉した。 |
| 29 | 1号炉 | 休炉 | H22.7.11 | 15:04 | H22.7.16 | 6:00 | 当該コンベヤが「電流値高」でﾄﾘｯﾌﾟした。現場を確認したところ、駆動部分でバケットコンベヤの噛み込みによる変形と主務チェーンの破断を発見した。補修のため灰溶融炉を休炉した。 |
| 13 | 2号炉 | 休炉 | H22.5.18 | 12:24 | H22.5.21 | 16:15 | №2破砕スラグ搬送コンベアが「電流値 高」でﾄﾘｯﾌﾟした。現場を確認したところ、弛んだコンベア主務チェーンの片側がコンベア内に絡まっているのを発見した。補修のため灰溶融炉を休炉した。 |

## 品川清掃工場(灰溶融炉)

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 80 | 2号炉 | 休炉 | H23.2.23 | 8:45 | H23.3.8 | 20:30 | 溶融排ガス集じん器の「ﾛｰﾀﾘｽｸﾚｰﾊﾟ電流値上限」警報が発報した。点検するとﾎｯﾊﾟ槌打時に一時的な灰搬出があったが、その後は灰が出てこない。ﾎｯﾊﾟ部の堆積灰を除去するため灰溶融炉を停止した。 |
| 78 | 1号炉 | 休炉 | H23.2.1 | 0:50 | H23.2.9 | 14:33 | 灰溶融炉スラグ室（B）の壁面にスラグが付着してしまい、出滓するスラグが水砕水槽に導けなくなったため灰溶融炉を停止した。 |
| 31 | 2号炉 | 休炉 | H22.7.13 | 16:02 | H22.7.22 | 23:00 | 溶融排ガス冷却器のロータリースクレーパが過負荷で停止した。クリンカ等による噛みこみと思われ、解除するため灰溶融炉を停止した。 |
| 19 | 1号炉 | 休炉 | H22.6.12 | 22:42 | H22.6.18 | 20:08 | №1破砕スラグ搬送コンベアのチェーンが破断し停止した。復旧させるまで時間を要すため、1号灰溶融炉を停止した。 |
| 14 | 1号炉 | 休炉 | H22.5.17 | 22:10 | H22.6.10 | 19:05 | 灰溶融炉の炉体冷却用循環冷却水の熱交換が不具合で、圧力が上昇気味となり気水分離器用ｼｰﾙﾀﾝｸより蒸気が噴出した。復水器ﾌｧﾝ回転数の設定変更等試みたが復旧しないので調査等するため休炉した。 |

東京二十三区清掃一部事務組合「清掃工場故障週報」より作成

# 東京23区「清掃工場故障週報」 平成22年度 －清掃工場別－

## 葛飾清掃工場(灰溶融炉)

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 72 | 2号炉 | 休炉 | H23.12.24 | 13:24 | H23.1.19 | 8:30 | 「主電極昇降装置電気故障」警報が多発した。主電極昇降装置点検のため、2号灰溶融炉を立ち下げた。 |
| 59 | 2号炉 | 休炉 | H22.11.14 | 23:09 | | | 出滓状態の点検時、スラグ出滓口下部シュート付近の水砕水槽天板（縞鋼板）の一部が赤熱していたため、通電を停止した。なお、水膜装置等点検するため灰溶融炉を立ち下げた。 |
| 36 | 2号炉 | 休炉 | H22.8.19 | 7:05 | | | 「灰供給装置故障」警報が発報し、現場にて点検後運転を再開すると過負荷で停止してしまう。灰供給装置の運転継続ができないため灰溶融炉を立ち下げた。なお、このまま計画停止に入る。 |

## 世田谷清掃工場(灰溶融炉)

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | 1号炉 | 休炉 | H22.7.12 | 22:45 | H22.7.15 | 15:00 | 「細粒灰貯槽切出装置過トルク」警報が発報した。切出装置のスクリューコンベアのシャフトが折損し回転不能となったため灰溶融炉を停止した。 |
| 7 | 1号炉 | 休炉 | H22.4.19 | 6:37 | H22.6.29 | 19:00 | 「1号№1プラズマ重故障」にてプラズマが失火した。現場を確認したところプラズマ電源装置の基盤に焼損した箇所を発見したので灰溶融炉を休炉した。 |

## 中防灰溶融施設

| 連番 | 炉 | 状況 | 発生日時 | | 復旧日時 | | 故障内容･備考等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 58 | 1号炉 | 休炉 | H22.11.4 | 23:50 | H22.11.25 | 13:15 | 電極継足装置にて、補助電極を継足し後、装置が故障し電極から取り外せなくなり補修するため休炉した。 |
| 12 | 2号炉 | 休炉 | H22.4.28 | 20:04 | | | 炉室監視モニタにて発光を確認し現場調査したところ、プラズマ直流電源用バスダクト焼損とその近辺に水砕水の漏水を確認した。休炉しこのまま定期点検補修工事に入り、その期間中に調査及び補修を行う。 |